

5インチ(127mm) 欄干システム

部材リスト

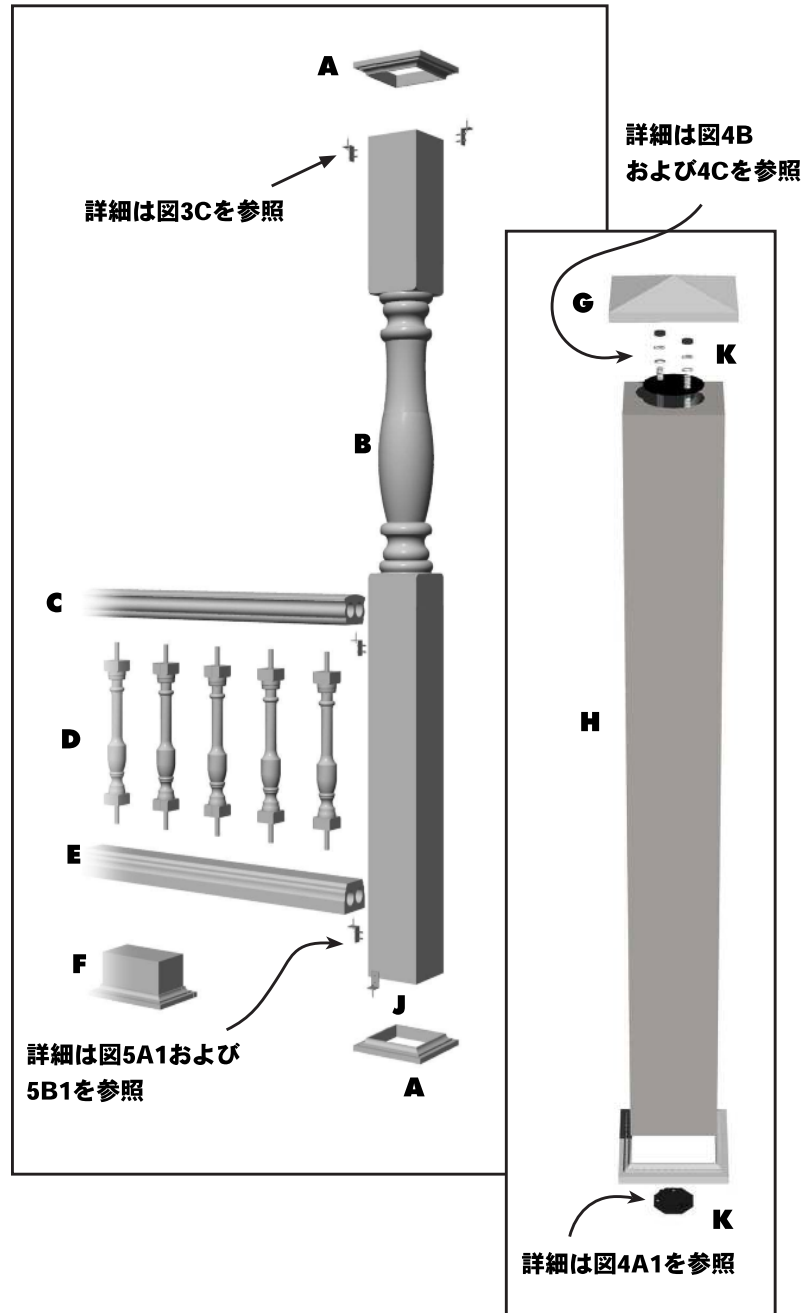
品名	数量
A ポーチ柱取付け (図3Cを参照)	
140mm x 140mm トリムカラー(TC6)	2
51mm幅 x 38mm x 51mm 角ブラケット	4
No.14 x 64mm ステンレス製平頭ネジ	12
B ポーチ柱 (PP6×96)	
C 手摺 (BTR5×96、BTR5×144)	
D 手摺子 (BAL3X18LN、BAL3X20WF、 AL3X24AY (右図)、BAL3X28AY、 BAL3X32AY、BAL3X36AY、BAL3X38AY、 BAL2X20SQ)	
E 下枠 (BBR5×96、BBR5×144)	
F 下枠サポート・ブロック (RSB4×4×6)	
G ポストトップ (図に示されたPST7×7Pか PST7×7F)	
H 親柱 (NP6×48)	
J 手摺取付けキット (図5Aおよび5Bを参照)	
51mm幅 x 38mm x 51mm 角ブラケット	2
No.14 x 64mm ステンレス製平頭ネジ	6
K 親柱取付けキット (図4A、4B、4Cを参照)	
10mm-16六角ナット	2
10mm ロックワッシャー	2
10mm USSフラットワッシャー	2
6mm x 直径114mmダイヤモンド型 スチール製上部取付けプレート	1
10mm x 1270mm ネジ筋入り棒	2
6mm x 89mm x 89mm 八角スチール製 ベースプレート	1
注：スチール製ベースプレートを床面に 取付ける留め金具は含まれていません。	

※床面に適した金具を現場でご準備下さい。

L オプションの装飾トリムカラー (TC6)

140mm x 140mm トリムカラー 1

各地域で適用される手摺・下枠建築基準法規を必ずご確認ください。地域によっては取付け手順を調整する必要があります。当製造会社は、製品取付けに関する保証は一切いたしません。この取付け説明書でご説明する手順は、あくまでも適切な取付けの参考としてご利用下さい。



この5インチ (127mm) 欄干システムは検証済みで、製造会社の取付けガイドラインに従って組立てられた場合は、下記の1993年度BOCA米国建築法基準を満たします：

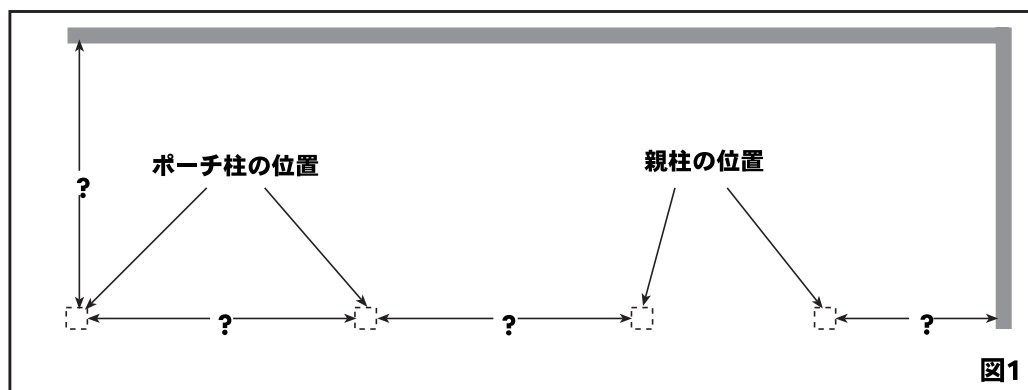
1615.8.2 防護設計および建築

1615.8.2.1 全地域

ステップ 1：親柱およびポーチ柱の割付け

床面に親柱およびポーチ柱の割付けを全て線で印します。

親柱およびポーチ柱の寸法を考慮して割付けます。

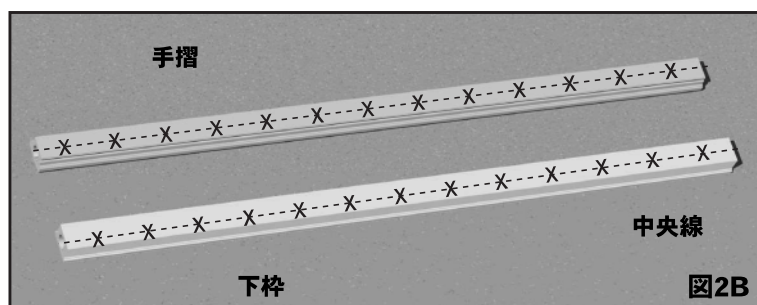


注：手摺と下枠の長さを正確に定めるには、この割付け作業を正確に行うことが大切です。

ステップ 2：欄干部分の組立て

予め工場で欄干部分を組立てておくと、現場での取付け所要時間を短縮することができます。組立てた欄干を現場に搬入すれば、支柱と支柱の間に取付けて簡単に完成させることができます。

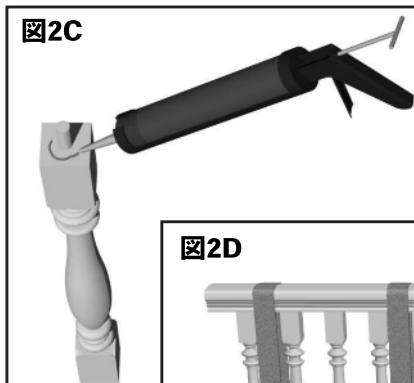
A) (ステップ1に従って) 現場で測った正確な数字を基に、手摺と下枠を適切な長さに切断します。



B) 手摺・下枠の上に中央線を引き、割付けをします。手摺子の位置を印し、手摺子が挿入できるようにドリルで穴をあけます。ドリル穴の直径は、手摺子の寸法に対応させます。

注：手摺子を挿入するための穴をあけるとき、標準の木工用ドリルビットにドリルプレスを用いると便利です。

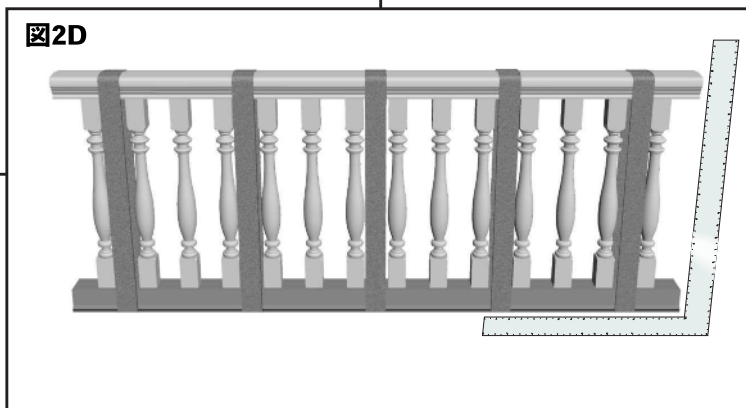
図2C



C) ウレタン系建築用接着剤を各手摺子の両端に6mm幅で塗り、手摺と下枠にそれぞれ挿入します。

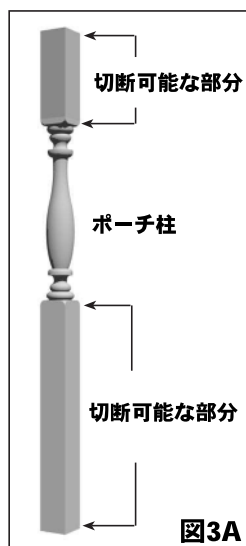
D) 組立てた欄干は、平らなところに寝かせて設置します。必要であれば、帯状締め具を使って、欄干がゆるまないように締めます。接着剤が乾燥し固まるまで、しっかりと締め具で締めておきます。(通常、最低12時間かかります。)

図2D



接着剤が乾燥し始めたら固まる前に、欄干が真四角で、手摺子が手摺・下枠に対して直角であることを確認します。はみ出した接着剤は硬くなる前にパテナイフで取り除きます。接着剤が完全に乾燥し固まるまで、欄干は動かさないようにしてください。ペンキは欄干の組立てを終え、現場へ搬入する前に塗るのが一番良いでしょう。

ステップ 3 : ポーチ柱の設置

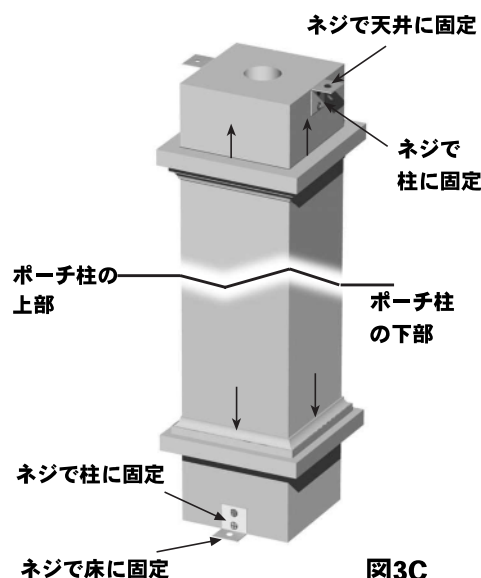


A) ポーチ柱は耐力柱です。支柱の上部または下部の平らな部分を切断すると、柱のデザインを損なわずに高さを修正することができます。但し、ポーチ柱の中心にはスチール製パイプが通っていますので、それを切断するには弓鋸または金属切断用の刃を装備した鋸が必要です。

B) トリムカラーを柱にはめます。



C) 図3Cに図解されているように、51mm幅×38mm×51mmのアルミ製角ブラケットを取付けます。No.14×64mmのステンレス製平頭ネジが挿入できるように、3mm×64mmの誘導穴をドリルであけます。(石工用留め金具はパッケージに含まれていません。) トリムカラーを末端まで滑らせるように移動させ、ブラケットの上にのせます。接着剤とトリム用釘で固定します。



ステップ 4 : 親柱の設置

A) ステップ1で印した割付け線の中央に固定用ベースプレート位置付けます。床にしっかりと固定します。(床への留め金具はパッケージに含まれていません。) 10mm×16 x1270mmのねじ筋入り棒を固定用ベースプレートに挿入し締めます。

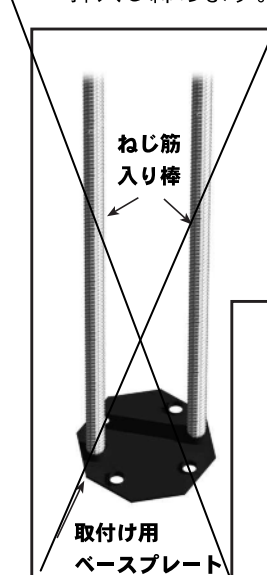


図4A1

B) 親柱を希望の高さに切断します。(ルーター機で細工を施していない柱の下部を切断してください。) 柱に予めあけられている穴と棒が一直線に並ぶように位置付け、棒の上から被せるように親柱を取付けます。10mmのフラットワッシャーとロックワッシャーを取付け、10mmのナットを使って、11.3ニュートンメートルのねじり力まで締めます。

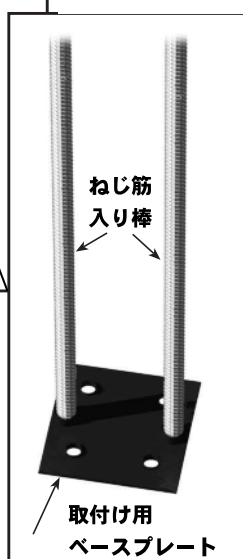


図4A2

C) 親柱が床に接触する部分は、トリムカラーを用いて仕上げることもできます。(部品リストを参照) 親柱ポストトップを取付ける前に親柱の上部からトリムカラーをすべらせてはめ込みます。

D) 親柱ポストトップを取付けて仕上げます。ウレタン系建築用接着剤を塗って取付けた後、釘またはネジでポストトップを固定します。

現在仕様変更
形状異なります

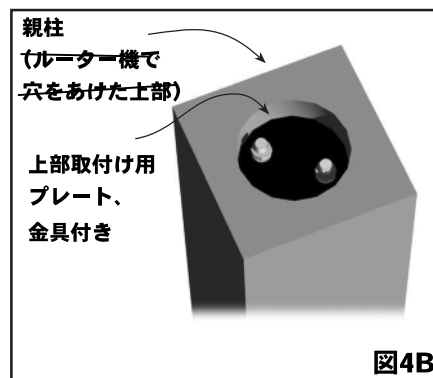


図4B

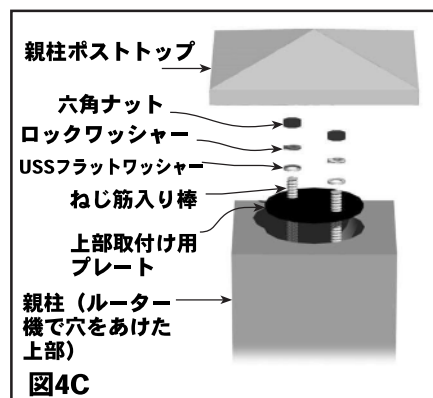
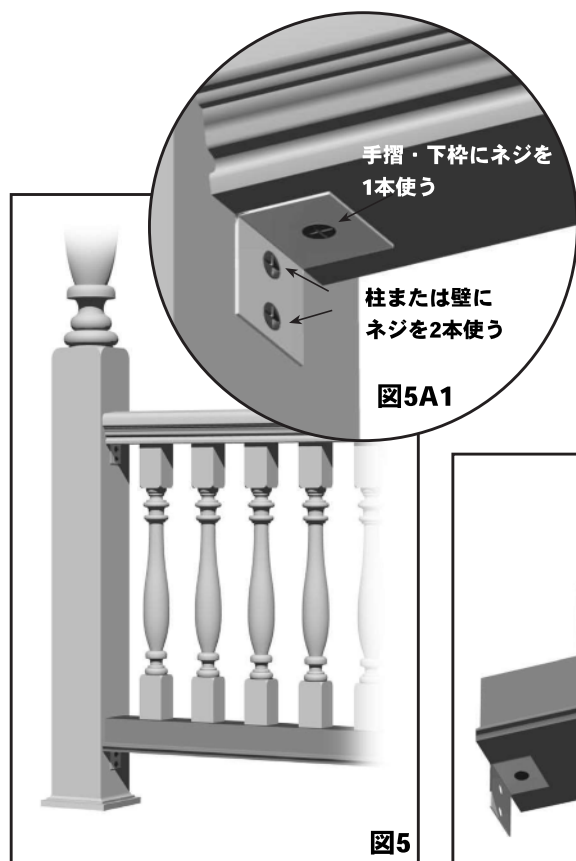


図4C

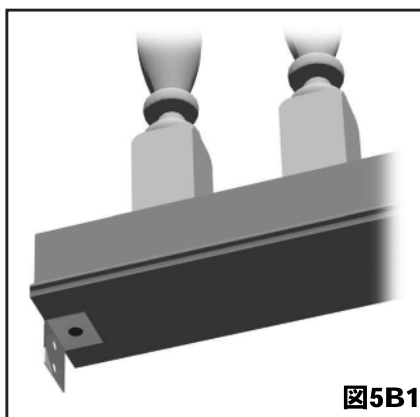
ステップ 5-1 : 5インチ(127mm) 欄干部分の取付け



柱が全て取付けられたあと、角ブラケットをネジを使って柱または壁に取付けます。ネジを挿入する前に、3mm×64mmの誘導穴をドリルであけます。柱と柱の間に組立てた欄干をしっかりと隙間なくはめ込んで、前記の角ブラケットで固定します。角ブラケットの取付けには、ステンレス製平頭ネジ（No.14×64mm）が3本必要です。

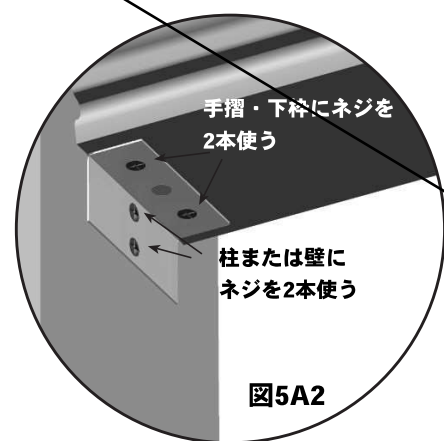
A) 手摺の高さを決めます。ネジを2本使って、角ブラケットをしっかりと柱に取付けます。

B) ネジを1本使って、もうひとつの角ブラケットを下枠の下側に取付けます。



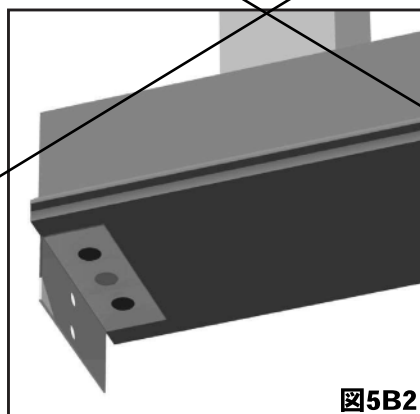
C) 手摺・下枠が柱に接触する面にはウレタン系建築用接着剤を塗ります。組立てた欄干を柱と柱の間にはめ込み、残りのネジを締めます。

ステップ 5-2 : 6インチ(152mm) 欄干の取付け



柱が全て取付けられたあと、角ブラケットをネジを使って柱または壁に取付けます。ネジを挿入する前に、3mm×64mmの誘導穴をドリルであけます。柱と柱の間に組立てた欄干をしっかりと隙間なくはめ込んで、前記の角ブラケットで固定します。角ブラケットの取付けには、ステンレス製平頭ネジ（No.14×64mm）が4本必要です。

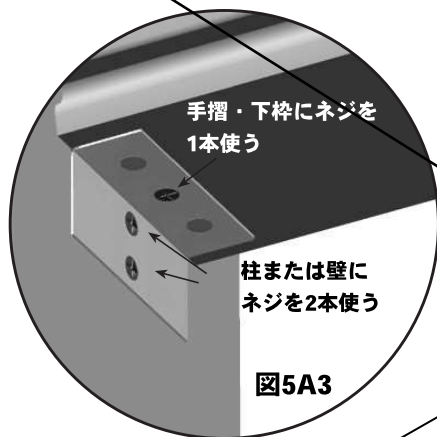
A) 手摺の高さを決めます。ネジを2本使って、角ブラケットをしっかりと柱に取付けます。



B) ネジを2本使って、もうひとつの角ブラケットを下枠の下側に取付けます。

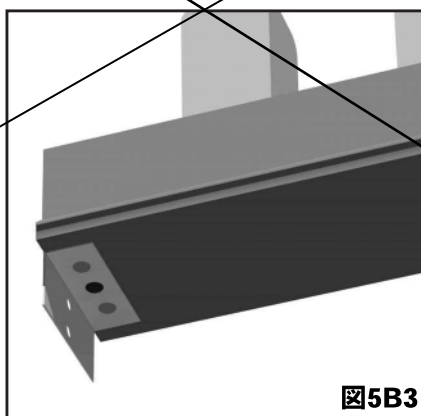
C) 手摺・下枠が柱に接触する面にはウレタン系建築用接着剤を塗ります。組立てた欄干を柱と柱の間にはめ込み、残りのネジを締めます。

ステップ 5-3 : 7インチ(178mm)欄干の取付け



柱が全て取付けられたあと、角ブラケットをネジを使って柱または壁に取付けます。ネジを挿入する前に、3mm×64mmの誘導穴をドリルであけます。柱と柱の間に組立てた欄干をしっかりと隙間なくはめ込んで、前記の角ブラケットで固定します。角ブラケットの取付けには、ステンレス製平頭ネジ（No.14×64mm）が3本必要です。

A) 手摺の高さを決めます。ネジを2本使って、角ブラケットをしっかりと柱に取付けます。

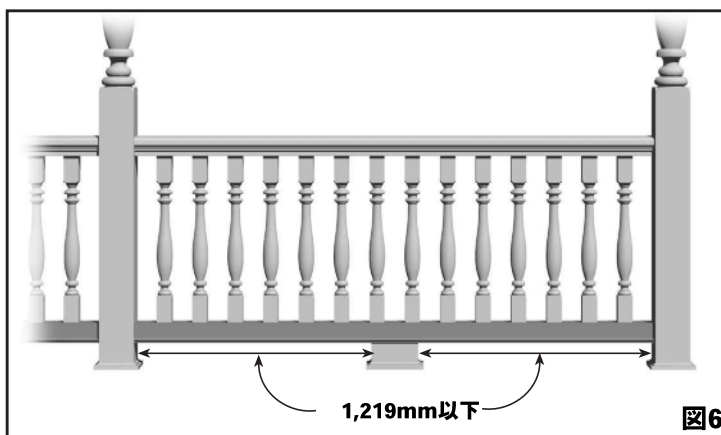


B) ネジを1本使って、もうひとつの角ブラケットを下枠の下側に取付けます。

C) 手摺・下枠が柱に接触する面にはウレタン系建築用接着剤を塗ります。組立てた欄干を柱と柱の間にはめ込み、残りのネジを締めます。

ステップ 6 : 下枠サポートブロック

下枠の下には1,219mm以下の間隔でサポートブロックを配置します。サポートブロックは、下枠の高さに合わせて切断します。



ステップ 7 : 仕上げ

人目に触れる手摺・下枠留め金具は全てさら穴に納め、自動車の車体補修用充填材（例：ボンドー製）で埋めます。乾燥後、サンドペーパーをかけて平らにします。隙間は上質の外装用コーキングで埋め、上質のラテックスまたは油性ペンキを工場で施した仕上げの上に塗布することができます。